

# 平成 28 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

## 議事概要

平成 28 年 9 月 6 日 16:00 ～ 17:00

羅臼町 商工会館

## 議事次第

1. 環境省、林野庁、北海道の実施事業報告・予定
2. 科学委員会からの報告
3. その他

## ●開会挨拶（釧路自然環境事務所長）

本日はお忙しい中、平成28年度第1回の知床世界自然遺産地域連絡会議に御参集いただき感謝いたします。

地域連絡会議は、各種制度を所管する関係行政機関と地元関係団体との緊密な連携と協働を図ることを目的に設置されています。地域の皆様からのご意見を伺って世界遺産地域の管理に生かしていきたいと考えております。

昨年度は、地域の皆様のご協力のおかげで、世界自然遺産登録から10周年を迎え、記念式典も滞りなく終えることができました。

また、昨年度の第2回地域連絡会議でもご議論させて頂いた北海道知床世界自然遺産条例につきましては、今年の4月1日より施行されるとともに、北海道庁において知床分室が設置されたところです。

先月には、今年度第1回目の科学委員会が開催され、各部会においてもそれぞれ重要なテーマに関する議論・検討が進められております。

本日の会議では、行政で実施している事業や科学委員会での検討状況等について、最近の動向も含め報告することを予定しています。

短い時間での会議となりますが、地域の皆様とともに知床の管理を進めていくことが重要と考えておりますので、忌憚のない御助言をいただけますようよろしくお願いいたします。

## ●鈴木羅臼副町長御挨拶

皆様、こんにちは。紹介頂きました副町長の鈴木でございます。本日町長は熱があって欠席させて頂きました。

現在、北海道内は災害で大変な状況となっており、当町においても8月24日に大きな土砂災害が発生し、多くの皆様に心配をおかけし、多くのお見舞いの言葉を頂きましたことに、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。各関係機関・団体、多くの町民のご協力のおかげで、何とか日常生活を取り戻しつつあります。ただ、道道において片側交通規制や時間規制が設けられており、まだ少し心配をおかけしていますが、治山業者には応急工事を行って頂いており、もうしばらくかと思っております。そのような状況ですので、皆様にも報告させて頂きたいと思っております。

本日、午前中より適正利用・エコツーリズム検討会議が行われており、議会対応のため私も出席できず申し訳ありませんでしたが、その中で羅臼町赤岩地区の昆布ツアーの提案があったことと思っておりますけれど、この3年間のモニターツアーは今年で終わるということでございます。こうした提案は知床にとっても羅臼町にとっても新たな取組であり、今後計画的な検討をして頂かなくてはならないと思っております。これには様々な問題

もあるでしょうけど、1つずつクリアしながら、保護一辺倒ではなく、適正な利用を図ってまいりたいと思っておりますので、皆様にもご協力頂ければと思っております。

また、知床遺産10周年を迎え、北海道では条例を今年の4月に施行されたところですが、地元自治体といたしましても、改めて身を引き締め、遺産管理者とともに後世にしっかりと引き継いでいくため、施策を推進してまいりたいと思っております。

本日は皆様方の活発な議論を頂いて、この会議が有意義でありますように私からもお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 議題 1. 遺産地域内におけるエゾシカ・ヒグマ対策について

- 資料 1-1：平成 27 年シカ年度エゾシカ捕獲事業結果  
…環境省、林野庁より説明。
- 資料 1-2：平成 27 年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況について  
…知床財団より説明。
- 資料 1-3：平成 28 年度 環境省・林野庁・北海道事業の予定  
…環境省より説明。
- 当日配付資料：知床の日について  
…北海道庁より説明。

ウトロ地域協議会（桜井）：ウトロ地域では、エゾシカの頭数が減ったという実感がある。しかし、ウトロ地域の中で生息しているシカは多いときで 22、23 頭おり、斜里町でフェンスを設置している部分に関しても、中に入ってしまった。金銭的な被害は無いかもしれないが、庭木や家庭菜園への被害がずっと続いている。そういった地域住民への被害を軽減するための捕獲事業はないのか。

斜里町（茂木）：被害について何らかの対策を行わなければならないという点は理解しているが、具体的な対策については今後検討させて頂きたい。

ウトロ地域協議会（桜井）：これは自治体がやるべき対策なのか。

環境省（安田）：捕獲についてはほとんどが自治体におろされており、環境省が行うのは国立公園または国指定鳥獣保護区の中での実施となる。これはあくまでも個体数調整であり、被害対策としてのメニューではない。被害対策については農林水産省の対応となっている。

ウトロ地域協議会（桜井）：国立公園は環境省、国有林は林野庁というのは理解している。隣接地域でのエゾシカによる被害は自治体がやらなければならないことになっているのか。

環境省（安田）：農林水産省で被害防除の補助金が出されているが、それは基本的に、基礎自治体が対象となっているという理解でよいか。

斜里町（茂木）：その点については何とも言えないが、どこにも属さないものであれば町でも対策を行わなければならないものと理解している。

林野庁（上野）：林野庁としても国有林から外れることはできないが、市街地対策についても検

討は行ってきた。箱わなによる捕獲などを活用しながら、斜里町や町内会などと協働で検討はしている。皆の総意があり関係者で実施できるようになれば、やっていきたいという思いはある。これから WG や行政関係者等で調整しながら進めたい。

知床財団（増田）：具体的な対策として正式な会議の場で明言は出来ないが、そういった隙間の部分について、どのように対応していくか、関係者で議論されているところなのでその点ご理解頂きたい。

環境省（安田）：個体数を減らしていくことが抜本的な対策となるので、そこは協力してやっていきたい。

## 議題 2. 科学委員会からの報告

- 資料 2-1：平成 28 年度第 1 回知床世界自然遺産地域科学委員会報告  
…環境省、林野庁より説明。
- 資料 2-2：知床半島ヒグマ保護管理方針の改定  
…環境省より説明。
- 資料 2-3：平成 28 年度 科学委員会・ワーキング等の今後の予定  
…環境省より説明。

質問・意見なし

## 議題 3. その他

- 資料 3-1：知床世界自然遺産 地域連絡会議 設置要綱（案）  
…環境省より説明

質問・意見なし

（全体を通して）

ウトロ地域協議会（桜井）：資料 2-2 の捕獲上限に関して、前回の説明会があった後、すぐに大量捕獲があり、地域では大丈夫かと心配する声があった。その後どうなったのかの経緯について、次の住民説明会では丁寧に説明して頂きたい。資料の「ただし～」の部分

について、前回の説明会では説明が無かったと思うので、そのあたりの説明も分かりやすく丁寧に行なっていただきたい。

環境省（前田）：承知した。今回新しく個体数の推定等行っているので、そういった上限等も含めて、出来るだけ具体的に説明するようにしたい。

以上